



青葉区民会議ニュース

2022年12月

56号

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

<第14期青葉区民会議中間総会を開催しました>

8月28日(日)に青葉区役所4階会議室でリモートとの併用により実施しました。コロナ禍第7波の渦中でしたが、ハイブリッドにて4グループの活動報告やアンケート報告を主体に開催し、久しぶりの情報交換・相互交流を行いました。



大型スクリーンでリモート

第14期青葉区民会議 中間総会プログラム

オープニング

開会宣言:土志田進行役、挨拶:小池代表、岩塚係長(区役所)

第14期活動報告

- ①前期の活動について:嶋田委員
- ②防災グループ:三枝委員
- ③交通グループ:松山委員
- ④健康長寿グループ:山本委員
- ⑤シェアリングエコノミーグループ:松山委員

質疑応答及び閉会宣言:土志田進行役

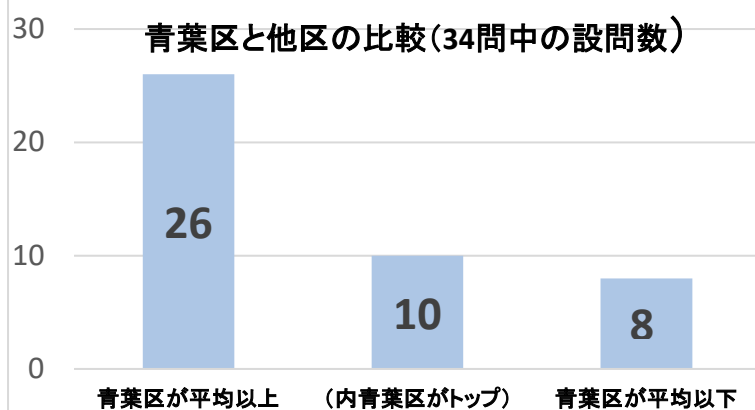


土志田進行役

<健康長寿グループ>

第2期健康横浜21最終評価報告書(案)によれば、横浜市の基本目標の目標値「平均寿命の増加分を上回る寿命の増加」に対し「健康寿命は延びていたものの目標値については健康寿命の増加分の方が男性0.07年、女性0.13年下回り、目標に達するには至りませんでした。」とあります。

区民会議としては、「第2期健康横浜21」に関する「令和2年度 健康に関する市民意識調査(2021年1月実施)」の結果を吟味し、青葉区の特性を抽出しました。他区との比較可能な34問の設問中、青葉区は26問が平均以上、そのうち10問は18区中トップでした。一方、青葉区が最下位の設問は3問でした。



◆青葉区がトップの設問項目(例)

- ・健康状態が良い
- ・毎日副菜を1日3回食べる
- ・飲酒する日の酒量1合未満
- ・健康管理にアプリやデバイスを使用したい
- ・自分の歯が20本以上ある

◆青葉区が最下位の設問項目(例)

- ・ウォーキングポイントを知っているか
- ・COPDという病気を知っているか

この意識調査から、青葉区民は健康への意識がとても高く、健全かつ適切な食生活を送っており、結果として健康を維持していることが分かります。また、他の意識調査なども併せてみると、健康管理におけるITの活用意識も高いと考えられます。一方、健康に関する行政サービスの認知度は必ずしも高くないと推察されます。

今後の課題として、年代別の意識や実態の把握、他の先駆的な自治体との比較検討、指標としての健康寿命の活用、健康管理におけるITの活用推進などが考えられます。今後さらに、これらの課題の検討を行い、青葉区民の健康レベル向上に資する活動を進めていきます。

青葉区民対象交通アンケート

<交通グループ>

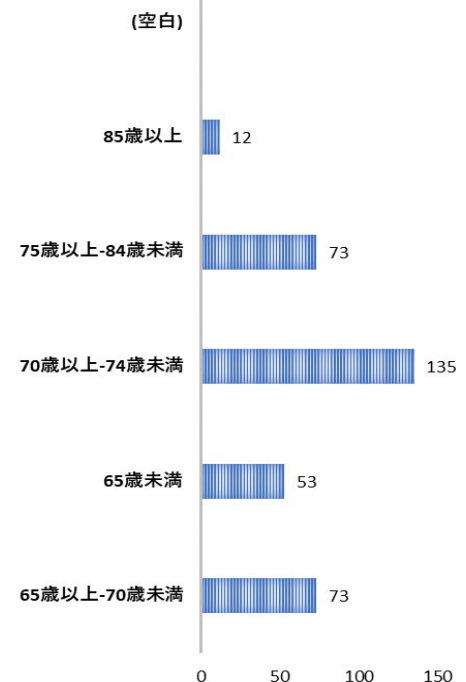
横浜都市交通計画や横浜市中期計画の見直しに対するパブリックコメントへの意見提出などを旨として、2022年5月に青葉区民への独自の交通アンケートを実施しました。広報よこはま青葉区版、SNS(LINE、Twitter)などを通じPRを行い、399名から回答を得ました。

以下、交通アンケート結果のハイライトを掲載いたします。

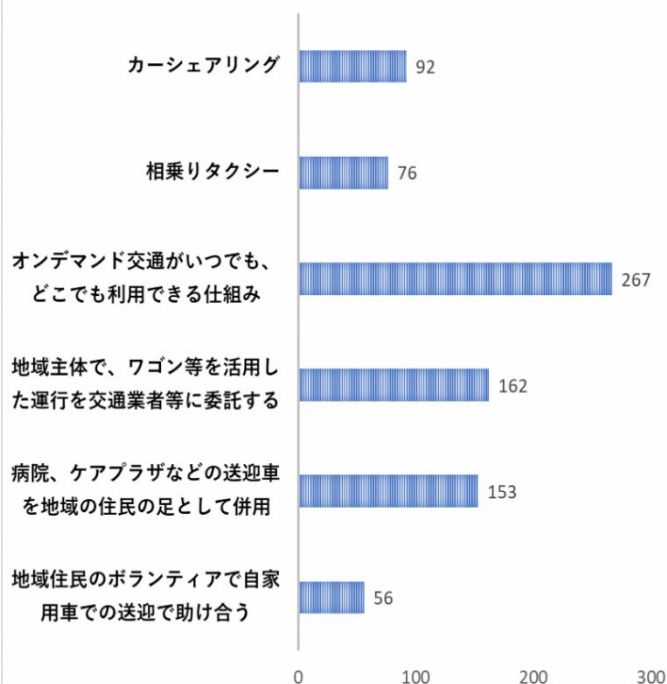
最寄駅またはバス停までにある制約



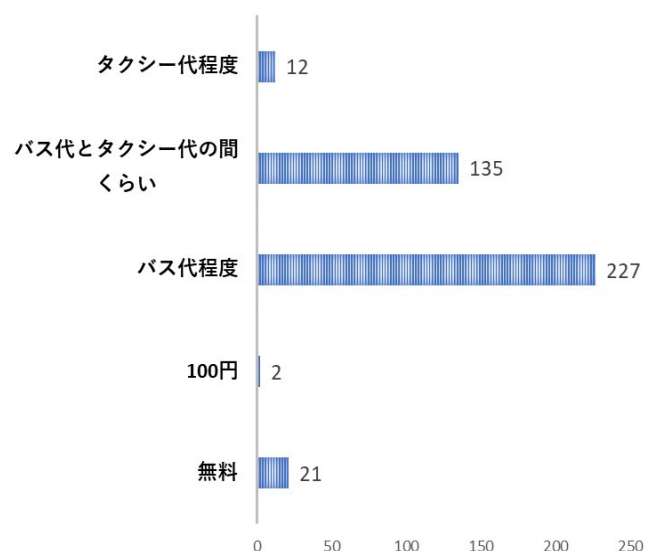
何歳まで運転を続けたいか



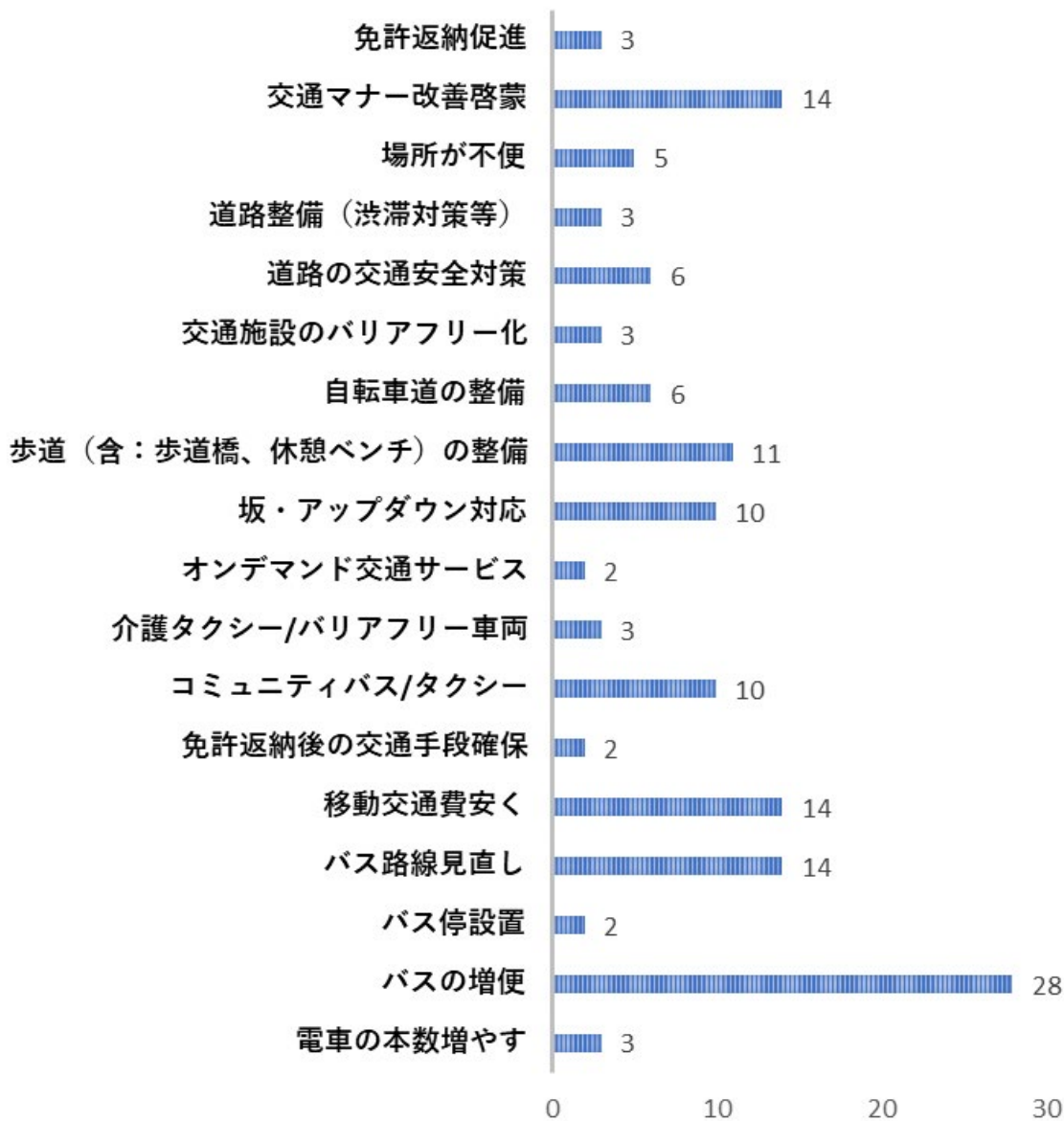
あれば利用したい交通手段



オンデマンド交通の許容できる利用負担額



地域交通に関する意見、困っていること



◆上記のアンケート結果を踏まえ、青葉区民会議では、「横浜市中期計画2022～2025(素案) 政策28 地域交通について」に関して、以下のパブリックコメントを提出しました。

→こうした交通アンケートで分かる通り、市民は市内の交通問題に対して様々な意見を持っております。この市民の声の「見える化」を図る方を確立して欲しいと思います。具体的には、市民の匿名での意見募集プラットフォーム（横浜市アイデアボックス）において、交通・道路整備カテゴリーを常設し、付設の「地図サイト」へ書き込みが出来るようにするようにして欲しいです。そのうえで、言い放して終わるのではなく、市議会の担当委員会所属議員がプラットフォームのファシリテーター役（論点整理、問題解決推進役）となるなどし、施策化・事業化につなげる仕組みを作って欲しいです。

青葉区民会議では、アンケートなどを通じて市民の意見の集約を図り、市政への提言に繋げる活動を今後とも行っていきたいと考えています。

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて青葉区役所 1階広報相談係へ

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール:ao-koho@city.yokohama.jp

※個人情報は、事業の目的にのみ使用します。

青葉区内の大規模停電から見てきたこと

<防災グループ>

5月13日(金)22時30分頃からおよそ6時間にわたり、区内6万2千軒を超える大規模停電が発生しました。防災グループでは、今回の停電を人為的災害と受け止め、部会員のその時の行動を通して問題点や課題を整理しまとめました。

◆まさかトイレが使えないなんて◆

停電でトイレが使えないというのは想定外でした。最新式のトイレは、リモコンボタンで水を流すので、用を足した後に水が流せず慌てた人が多かったようです。説明書には、停電の場合の対処方法が書いてありますが、事前に説明書を読んでいる人は少なく慌てたようです。もしもの時のために説明書は読んでおくの良いですね。

また、「便器に水を勢いよく流せば流れる」ということを知っていた人もいますが、勢い不足で流れず、水がたまるばかりだったという報告もありました。



◆長時間停電？ 冷凍庫は…◆

長時間の停電でしたので、冷蔵庫や冷凍庫の中身を気にした人も多くいました。冷蔵庫の扉を開けなければ、保冷効果は2～3時間。扉の開閉を少なくするというのは常識ですが、保冷効果を高めるためには、冷蔵庫は冷気の循環を良くするために普段から中身を少なめにしておき、逆に冷凍庫は満杯状態にしておくのが良いとのこと。庫内の食材がお互いに保冷材の役割を果たし、庫内の温度上昇を防ぐことができるそうです。いざという時のために冷凍庫には、隙間があれば普段から保冷材や水のペットボトルを凍らせておくのがおすすめです。

◆情報の入手方法は◆

今回の停電では、原因がなかなか分からず、いつ復旧するのかも見当がつかなかったため、「もう少し早く情報が欲しい」という意見も多くありました。「東京電力パワーグリッド停電情報」を検索するのが一番確実でしたが、知らない人が多く、Twitterで情報を得た人が大半でした。

区に停電時の情報入手方法を尋ねたところ、「今回は情報収集に注力してしまったが、区としても今後は情報発信できるように努めていきたい」という回答をいただきました。すでにある「青葉区防災情報専用ダイヤル(050-3627-5800)」（注1）や「青葉区版防災情報伝達システム」（注2）を停電時においても状況に応じて発信できるように検討していきたいとのことでした。



◆命に係わる自宅療養者の医療機器◆

今回は、6時間という長い停電だったため、自宅療養者で電源が必要な医療機器を使用する人たちにとっては、命の問題と直結することにもなりました。早急に対策を考えなければいけないでしょう。区に質問をして、横浜市の新たな取組を教えてくださいました。

市では、今年度から「横浜市要電源障害児者等災害時電源確保支援事業」（注3）を始めたそうです。対象者が限定されていますが、まずは一歩前進です。

停電は身近な出来事で「すぐに復旧するから大丈夫！」と考えがちです。しかし、復旧に時間がかかると、時間帯や季節によっては大きな被害を受けることになるかもしれません。

今回の停電をきっかけに備えを見直し、一人一人が自助・共助について改めて考える必要があると思います。

（注1）青葉区防災情報専用ダイヤル

主に地震が発生した場合や大型台風が接近している場合などに、避難指示や避難場所の開設状況などを自動音声にてお知らせします。

（注2）青葉区版防災情報伝達システム

自治会長・町内会長や地域防災拠点運営委員長に対し、重大な被害が予測され、緊急性が高い場合に、電話や防災ラジオにより情報を伝達します。

（注3）

